

美作勲臣圖書

五

13  
3380  
5



門 へ 13  
號 3380  
5

義仲勲功圖會前編卷之五

目錄

兼遠陳謝呈起籍文 日區

知盛燒落板倉城

清盛入道逝去

從緒國京城告急并河野道信事

河野道信額入道を討圖

墨股川合戦行家敗軍

卿公義円戦死の圖

大正十年八月廿九日  
寄  
本大學出版部

勲功圖會前編五目錄

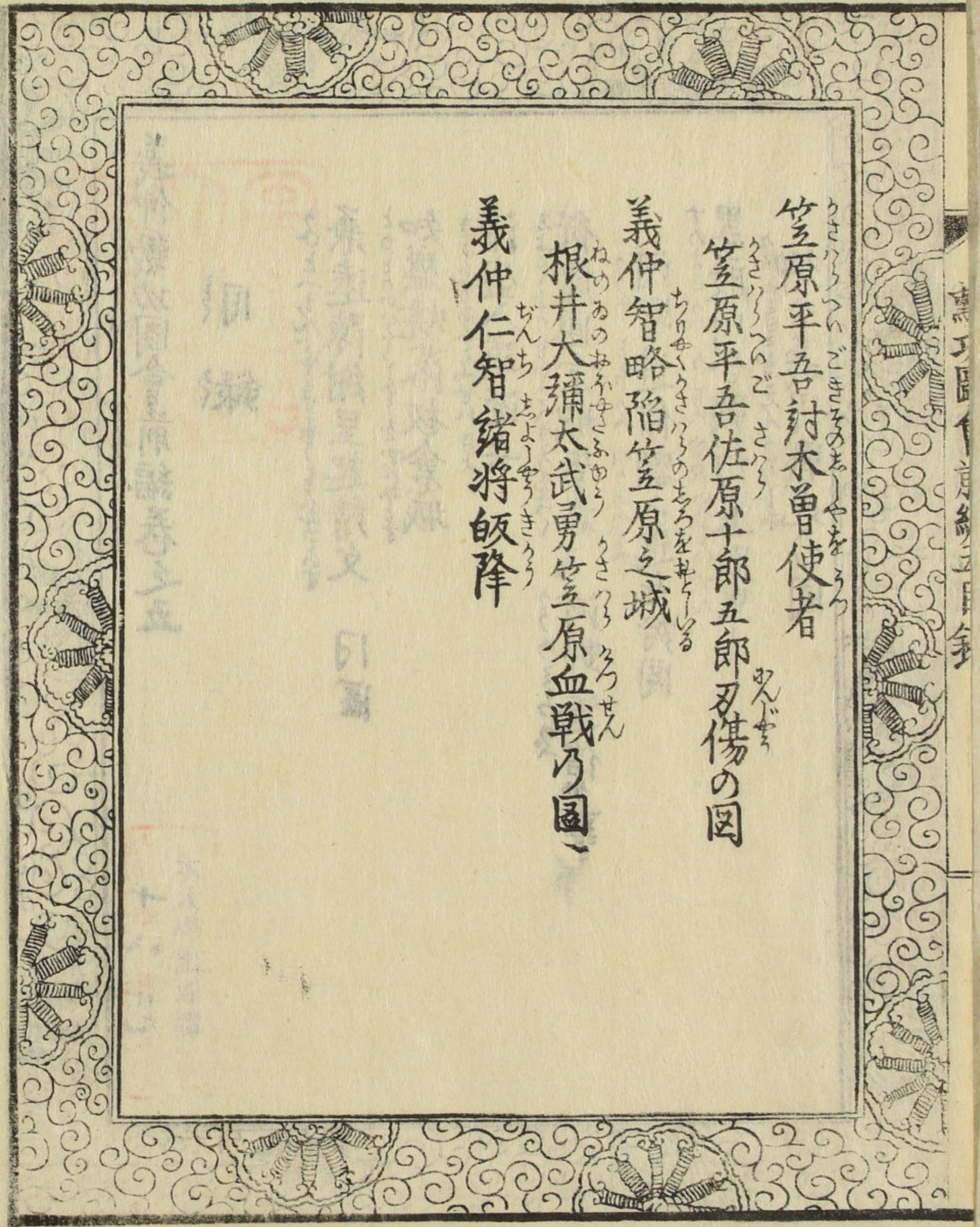
竹原平吾討木曾使者

笠原平吾佐原十郎五郎刃傷の図

義仲智略陷笠原之城

根井大彌太武勇笠原血戦の圖

義仲仁智緒將飯降



木曾義仲勲功圖會前編卷之五

兼遠書詎起諸文條

浪速

山隼士信考訂

去程小兼遠と利害を説く木曾殿を宥め上京の旅装代調(板付)小滋野乃任人根井太夫行親成招たりせ潜小對面く々々資所小勇知ぬふく其木曾殿の二歳の時より勇進せ天晴大將軍小仕とて家名成引與させ奉んと昼夜寐食成忘る乎其甲斐あつと古今独歩の名將とあり也今平家乃暴悪成伐ん者伊豆の兵衛佐殿我木曾殿の外小有る乎然ふ佐殿と早も関八及の軍勢成隨て東小小旗成揚玉り木曾殿の内加組の黨女乎とてお事成致さるゆら時女く勲せ守然ふ何者か機密成泄し之逸早く義兵の結構平家(史)某成二波羅(百)登さとの使者看到せり是八某小妻の實否成問明くとも且八中乃動靜成と使者小探せしめ為か因る某洋と

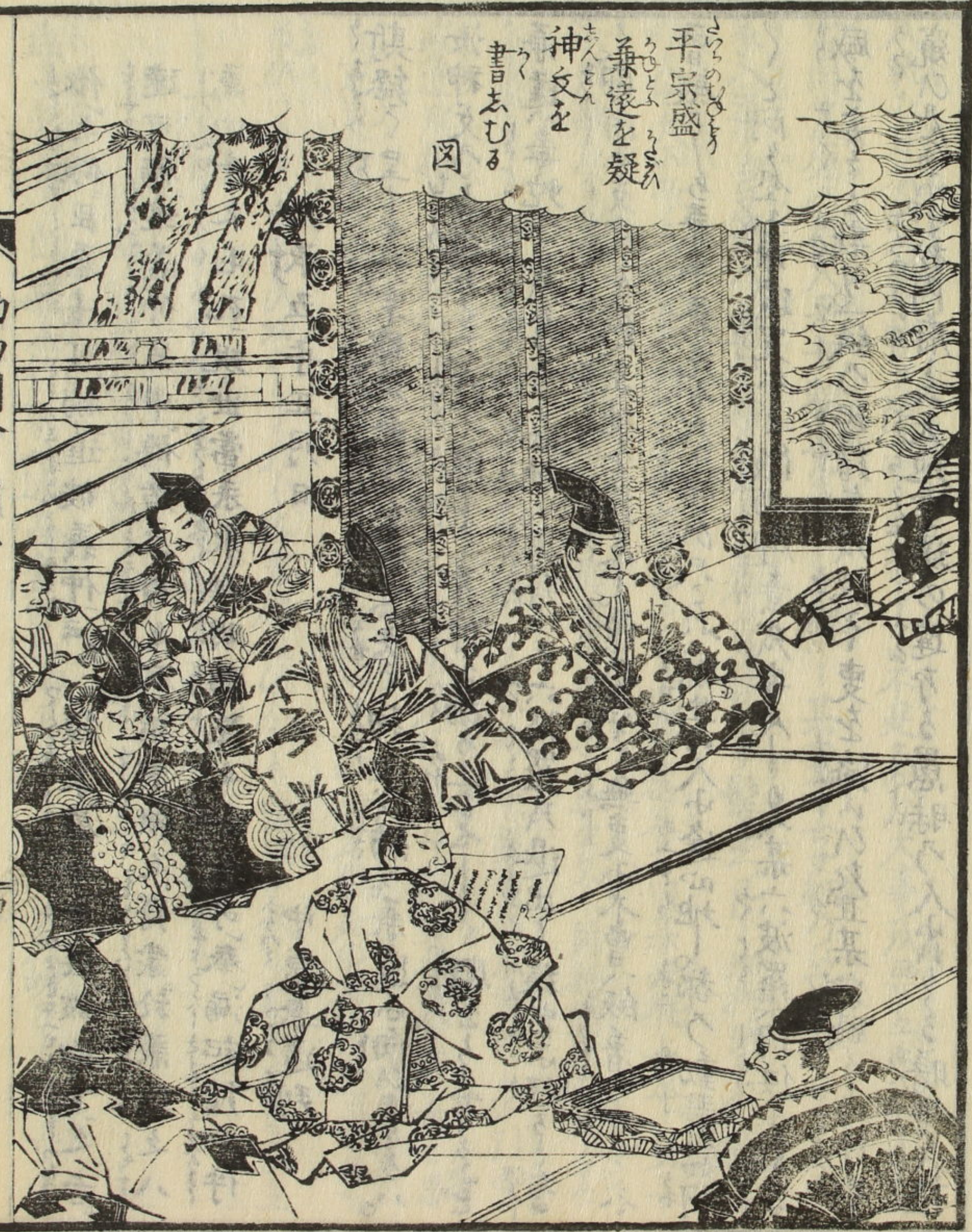
幼刀圖會前編

左あらし体少く使者とほたり呼らぬまも陳謝し時日延まんと已れ角  
 成決せり。されも水火の中へ往り北に上京をせん存命し。飯し。頼り。  
 万望今日より和殿某の代り木曾殿のほんく合戦の用意し。事調り某  
 が存亡成念と母の疾く楊経く近隣の敵を伐平均根成強し。初成固  
 く京城へ攻上り。之將亦思息兼平兼光成も和殿の子息大駒。大日金小  
 子とまり。方教授し。軍令の悖り。法度成破。速小斬。捨三軍の  
 滅とたり。か。頼り。行親一織。及なり承引。某成人ま  
 しく思ひ。大義成終せ。事。武士の面目身の本懐。心安うき  
 我脚辺が智才小不及。脚辺が身成。木曾殿成守傳。不日小義  
 兵成起。誓紙成。血判。差出。兼遠洞を流。大の  
 悦ひ尚密々小万事成示。合せ。小別成告。六波羅の使者とほたり。後  
 成日小延。都小上り。六波羅の問。出仕。斯と奏者の通。小

より。石大に宗盛大廣間小出座。在京の武士奇羅星の。居並せ。兼  
 遠成召出。宗盛。渡。如何や兼遠。年久。當家の恩。沢。浴。を  
 かの故先生義賢が遺子義仲とやん成養。時々。往。を。謀。叛。を  
 企世成乱。謀。注進の者有。慥。抑何の不足。何の遺恨。あり  
 て。狼心成。言。及。針。首。あり。陳謝の。あ。言。ま  
 んと。推柄。お。され。兼。遠。と。低頭。平身。是。思。も。脚。成  
 承。小。於。企。毛。頭。覚。れ。案。を。所。某。小。恨。ある。者。の。絶。言  
 中。ぞ。い。ぬ。去。ぬ。久。壽。二。年。の。頃。先。生。義。賢。の。子。ニ。才。の。と。悪。源。太。吉  
 心。成。怖。ま。母。の。膝。小。抱。ま。木。曾。路。を。入。り。其。成。種。を。頼。り。鳥  
 も。懐。小。入。り。痛。ま。も。是。成。不。取。り。流。石。武。士。の。情。乃。捨。け。今。日。逆  
 技。知。り。父。祖。小。方。暗。愚。の。者。物。の。用。小。ま。家。録。小  
 へ。召。使。ひ。謀。叛。を。の。義。成。勢。を。思。ま。る。者。小。御。意。成。安。个。を。

さのもま、中つ小申されむ。暗愚の宗盛是成、絨々、美彼謀叛をかりひをたむ  
 自より上京をまゐらば、使者といはれ、きき、覺たれ、證據なり。今緒、小凶  
 徒峰、紀とれ、人より、武辺の者、懐く、なれ、同歩なり、と、身ひ返り、兼遠  
 小向ひ、汝が、処、正なり、指免、尚隣、小謀叛の族あり、速、小注進、下  
 知を待、追討を、已、小許、飯、上、給守、忠清、押止め、兼遠  
 が、陳謝、未、明と、其故、且、武士の情、あ、其、身當、家、旗、下、に  
 屬、か、義、賢、子、成、月、今日、言、上、せ、其、意、得、汝、當、家、小  
 對、異、心、か、假、令、暗、弱、り、義、仲、を、搦、都、差、上、と、神、文、を  
 認め、差、上、此、義、違、背、り、於、汝、人、質、く、京、地、小、苗、武、士、成、下、  
 と、義、仲、成、搦、捕、と、退、引、せ、兼、遠、と、黙、首、心、中、小  
 好、今、神、文、を、認、む、必、定、征、兵、を、向、ら、下、書、け、神、明、佛、陀、小  
 偽、を、中、け、是、如何、せ、と、向、成、困、め、亦、あ、り、好、神、仏、を、發、馬、

詐、成、中、野、小、り、此、身、を、失、ふ、命、初、より、投、出、し、れ、惜、む、小、  
 只、木、曾、殿、の、世、小、出、を、願、り、後、來、貧、欲、此、義、の、謀、叛、を、順、成、以、  
 逆、を、伐、義、兵、を、假、小、神、文、を、認、る、と、天、神、地、祇、も、兼、遠、が、赤、心、真、見、の、  
 ち、人、所、謂、乞、索、麗、狀、と、除、成、や、し、胸、を、定、め、忠、清、小、對、  
 ひ、嚴、命、の、上、力、を、如何、も、冠、者、義、仲、成、搦、捕、と、せ、小、即、ち、偽、り、  
 さ、小、誓、言、の、神、文、を、認、め、た、熊、野、の、牛、王、成、緒、其、裡、小、神、文、成、認、り、  
 謹、結、天、罰、起、緒、文、事、  
 右、上、奉、始、梵、天、帝、釈、四、大、天、王、日、月、三、光、七、耀、九、星、二、十、八、宿、下、  
 内、海、外、海、龜、神、八、部、堅、牢、地、祇、冥、官、冥、衆、日、本、国、中、七、道、諸、列、太、  
 小、緒、神、鎮、守、王、城、緒、大、明、神、驚、申、而、白、木、曾、冠、者、義、仲、者、魚、為、六、  
 孫、王、之、苗、裔、八、幡、太、郎、之、後、殖、非、弓、馬、之、家、可、繼、武、藝、之、蓋、然、有、  
 相、語、北、陸、道、之、凶、黨、擬、滅、平、家、一、族、之、忠、臣、有、其、聞、甚、以、盪、吹、也、



依之仰臣兼遠可擯進彼義仲云 謹蒙嚴命畢任被仰下之旨  
速河擯進義仲若申偽者上件之神祇冥報之罰蒙於兼遠之八  
萬四千之毛孔現世當永神明佛陀之利益可奉漏起錯如件

治承五年正月日

中原兼遠判

斯怒呈一々宗盛称兼遠を疑心失く神文成納め兼遠小向ハヤ  
汝神文乃音偽かく疾く飯多く義仲を擯上とて一々服をとせざる  
兼遠ハ毒蛇の口成免き一心地一再拜一六波羅戎退出一旅宿小飯  
一即同小支度を調(京地)を幾足一路成急々無更小木曾(飯着)一木  
曾殿一も兼平兼光も大小悦ハ只一蘇生の人小逢心地一都一動靜ハ如何  
一と伺々れ兼遠完尔と微晒脚意戎安人一其六波羅(何候)一宗  
威を安々と欺り一紙乃起結文成怒一更を海ハひれ且其宗威一為休を  
窺ハ見ハ小松内府一ハ天地雲壤の違ハる愚昧ハ人小ハ一暗將兵権

成執ハ日本国ノ軍勢ヲ隨遂トモ恐ラ小不足急ハ大事成思立手始一  
當國世原ノ任人平頼直を誅一更但一其ハナリ字細ハ今日一  
家入道一弓箭ノ道を捨ハズ一短刀成扱一鬚ハ切拂ハハ大将  
始人々大小執ラ是ハ何也ハ判髪あるヤ一問兼遠答テ曰其此般上京一ハ平  
家成欺ラ之為ト一申カカ一恐マモ熊野ハ牛玉ハ血を文一諸神緒ハを  
一奉リ一之を索雇状ハあり其悖ハ小ア一故ハ罪成吾身一人ハ引受  
武道成捨ラ上六君ノ御身ハ小神ノ祟イテ一以ハ根井海野ハ人々成某一思  
一萬刀更を商議一更某ハ今日一ハ佛道修行一敵味方戦死ノ者ノ後世佛景  
吊ハハル一ハ切ク一木曾殿及ハ人々モ道理ハ伏一斯ハハハ  
一上止むる一ハ止ム一嗟嘆一其心ハ任

知威燒落板倉城條

茲小新宮十郎藏入行家ハ通高倉官ノ御見知一ハ頭見大切ヲ令旨

脚使を輩りかゝる一討の廉忽より蜜更をりり高倉官かゝり小源三位又子  
 小禍を及せしを知らず行家不覚を嘲多し行家安んず思  
 ひ一族縁体を疆維し尚東小下く兵衛佐殿小所存を結り軍勢千余騎  
 成借借勇まらるゝ東國筋を乱妨しを街々下の騷動大方なり  
 都へ急を告ると雪の恥がごとし是小依り平家の下知り左兵衛督知盛  
 中宮亮通盛左女将清経薩摩守忠度侍大将小尾張守実安伊勢守景  
 綱以下三千余騎少く治承五年二月朔日小都成茂足と或人知盛小告る今  
 只東塞りの願を明日幾足しと練兵知盛少く兵八山馬戦逆徳なり  
 何ぞ日然えらむむべし日恒まか一日敵小勢ひを添るなりと敢て是を念  
 とす守進幾ある城小知盛舎兄宗盛と判替り勇まらるゝ知り天晴大将の  
 機を具し平家此人を棟梁とせん安んず六七城をたれ小知盛宗盛の舎弟  
 かねて兵権を握ると能はず是小付彼小付平家滅つ萌を露り多と薄

情りなり斯く平軍の兵多し粟田山階因寺園山寺越り其日八野路小宿陣  
 翌日八野路の河瀬をたれり行々鏡宿小着処小當國の源氏小山水拍  
 木錦織甲賀の軍是成支んと家城小立籠り引段りお侍多し此義平家  
 一軍せんバ無人色をうき成知盛壯も強手三千余騎を三隊し甲賀  
 一城小攻寄息成も継ぎ探まらるゝ源氏小死力成軍一く防禦しれども  
 俄の竈城中く矢撞ま遂小城戸を攻破し大将甲賀入道山本兵衛尉をたれ  
 拍木錦織亦悉く討死し疎無き小を落失らるゝ平家方斬とる一首二  
 百余級街々小切掛手始り勇と愧び此勢ひ成抜を尾列の逆徒を  
 追掃とく操ふる進む処小美濃小赤坂小必人女々敵對の色成顯し支へ  
 多成平軍更もせず一戦小少敵し倍勇氣加り尾張國墨股川り善  
 陣し益少く敵徒の動靜を歩合と小職人行家小美濃小板倉の城小を籠  
 りたれを勢成進り板倉の城を取圍り一軍小攻破らんと攻とたれ



城兵も矢石代形なくく防脚しをれ左右なくも落べ死せり。只徒ら  
 刀攻しく兩三日成過し多知盛敵城の跡を日々急し謀を安下し出所  
 の拙換たて成招た寄金銀をよて敵城の後の山(通)道や有と向(焦)  
 丈ホ答く曰此城の後の山(通)路二筋は厚い一筋は路よくいど大なる溪一  
 瀟容易お越さく。今この路甚る難路いども溪を隔む城の搦手(池)  
 續ふいも知盛大つ小つるが伊勢守景綱小二百騎の兵を添謀を言會  
 彼拙い小案内をきく潜小間道(廻)し追手はさあゆ休ゆ徐く責  
 寄終日矢軍成催しれむ行家敵小城戸を破らまじし緒方小気成賦り防  
 戦し其日中漸小傾たね平軍は今日も攻働し休ゆく本陣(引)退せも城兵と  
 心成安んし終日の戦旁を休まらふ其夜二更の頃後山より俄小鯨波(声)震  
 發しひく拒火を雨の如く城中へ投下し兵の妻女あはれと嘯し喚く搦  
 手の城戸を押破り込入り城兵も終日の旁小前後もさす寐く在し此物

音小該死浪波夜討のふらと強死二張の弓小三人五人手成けり合  
 もあの一振の太刀を我のよ人のよといひ奪ひ合自し疵をまらふあり或ハ  
 般系が馬小歩騎く鞍を當或馬小逆小騎く後(逆)もあり維く欲を  
 防んとする者なく周障狼狽大方なり其うち小城中の役所も小火りえ  
 移り烈々と燃上れむ。平軍ハ其火光小素し茲小斬伏彼処小射仗はひの  
 高名成と顯りし大將藏人行家も大い該死火を消款成防んとあせれ共  
 只城中鼎の湯がくく中へ號令小赤をくせむ維りしむる者もたれむく  
 追手の城戸を開れ手勢成率し逃出る是より奇兵の陣中を城  
 中の火の手はひく須波味方の奇兵間より攻入款城小火をうけし此手も  
 追手へ攻結一騎も余守射取し各二隊を備を出し威を作し攻急行  
 家ハ前後の款小途を失ひかかゆ中へ引及と更能ふれを必死と覚期し  
 追手の款小たかくるも前後左右小當り苦戦し年々一方成切破り夜小給

て落行りたる始二千騎と申え一勢僅五百騎とありける。平家所不案内  
 かれを強く長追せしが城中の火を鎮り勝減を三度上り討取首次点檢とふ  
 五百余級と紀りぬ城小今度の勢ひ破行りしとされぬ平軍も倍鏡と云成増  
 源氏の輩恐ろしく不足と思慢ろり頼切ろり大将知盛余寒中らる寒熱  
 身を困ろり罷已更が不得墨股より都城へ飯陣ある是より因り副將軍左女  
 將清経も飯陣にこれ残る輩も軍威を落し只陣營を守りて都代りの  
 大将の下向をお待ろり叔彼藏人行家板倉を落し後中原と云所不足と  
 函め茲少く味方兵招集せしがも墓をくも集りて守其勢千騎不足バ  
 平家の陣を伐つ死勢もなく同前成刃令と我居りろり  
 清盛入道逃去之條  
 帝城小と美濃尾張表より度々勝軍の注進ある力成得此度八東國の  
 凶徒成平均再び太平の世と云ふと世小頼母と云ひける小頼盛所勞小

よりて飯京あり清経も日く飯陣せしを案小お遠く是如何と惘惑と右  
 大臣宗盛是成々々大の氣成焦燥斯く何の日の逆徒を平均養平小と  
 と云た此上六我船東必進發し凶徒を平定しと云軍勢成催促と云ふ小  
 七萬五千余騎と看到帳小紀りぬ宗盛大小欣悦し軍内と云やれ々る  
 先と云より東國の逆黨追討り為小征兵をさし向りへも墓と云し仕出  
 ころるも無之引返しぬ此度六宗盛大將軍成承ろり下向仕と云いし  
 奏しぬれ列卿然るを即ち節刀成賜りぬ宗盛拜謝し退  
 出し已に前後の軍隊を調へ二月廿七日京地を芽出と啓行しと逢坂  
 やく出陣有る都より俄小急使きと大政へ道殿以外外の御所勞り  
 いと且御飯陣にゆきしを宗盛より飛軍顔色如葉逢坂より京洛へ引  
 返りたる早京中小大政入道殿重病を受むし且夕の命も危しと罵り撥  
 死馬車東面小地違ひ僧俗男女走り送る喧しけんども疎なり宗盛倍

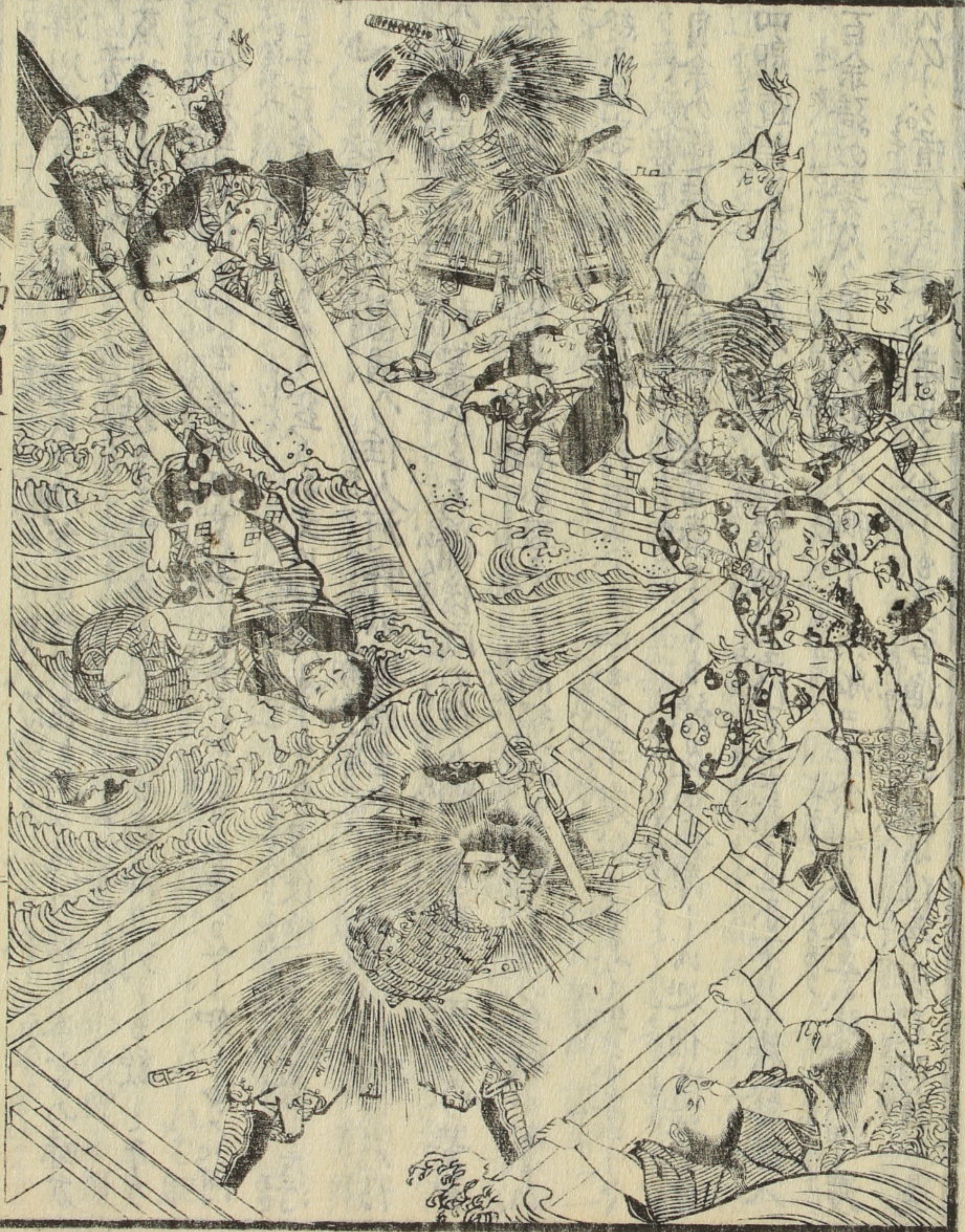
狼狽し急だ八條の亭に到りて、夕暮の光に大政入道、裸ゆく病床を阿漕びあり、  
熱や堪がずと叫其息の熱なり唯胎を吐き、三四回が程寄付たり、追  
熱を二位殿より二門頼業只泣沈む許す、絶たせたるも、宗盛も  
忙然として居られ、抑清盛入道の病源を探り、問は是も、濱岐院の御堂  
の所為とぞまへし、其故は左女將清経墨腰の陣ふく、或夜不側の夢を、これ  
より所六都乃六波羅と覺れ、外は清経夢心小臈月を、わたり独心成澄り、夕  
小さし、明朗なる天倉亭小捨曇り、大雨降出鳴雷、其たより、ねは、是の如  
何と、憫ましく、処小雷雨稍く鎮り、雲中小車乃論のき、音の清経再び  
姪々天女見上り、小忽ち雲中小宇の殿閣湧出、上座小二位乃大王錦乃  
裾の上小坐を、おし、其さ頭小銀針の如白髮生れ、上小金冠を戴  
た身小金龍の御衣を穿ち、玉乃笏を、持、二面の色八段も音く眼の光  
鏡の、階下小多乃眷属列座、甲冑を着、劍を執り侍坐せり、何小

覺王さも快然なる声を發し、朕一度大政入道の肺肝ふり、けい、音く王法佛法  
小冠させ、重盛が傘を縮り、平家表敗の線を引、其練成就し、今こ、小  
源氏與まの、時節到来せり、此上我々、五道の冥官小命、眞患の劫火を以  
く大政入道、焼殺し、其餘の二門を、遠く、海の小沈り殺す、如何  
快く、と、左右を、呼、呵々、と、笑、昔前小並居る、數百の眷属一  
度小嚏と、晒其声、雲上小舞音、清経仰天、呼と、呼と、倒る、ど、かり、む、悖  
然、夢覺り、清経、全身行小漫り、肉動、胸裏、動氣、不止、是  
り、清経、何と、都乃、心頭、み、故、知盛、引續、上洛、す  
ま、其、澄、や、大政入道、く、係、大熱病を、發し、晝夜、悶亂、遂、小  
七日、小中、日、虚空を、柱、七頭、八劍、狂、死、と、死、り、道、齡、六、十四、歳、と  
も、実盛者、必、襄の、理、生、前、小、千、軍、万、馬、を、威、伏、す、猛、將、も、真  
途、無、常、の、法、也、普、代、息、願、の、勇、士、も、簡、王、奪、魂、の、使、追、返、を、術、也、

一門の人々、夢現の竟を去る。今、緒の逆徒蜂起、四海動乱の時、  
 臨み、杖柱と頼、淨海入道薨去せしめ、是如何なり、行世の中、  
 う声殿上殿下小洋々、洛中、貴賤、大政入道逝去有、  
 西國、敵徒、今、帝城、襲ひ上り、  
 馳達、私財、雜具を運送し、老、  
 洛中、塵烟を蹴立ち、  
 由、  
 の雜具、小行、  
 ナ、  
 ね、  
 骨を、  
 道存生、

從諸國急使未 并 河野道信事

大政入道已、  
 國、  
 宇小、  
 鎌倉、  
 藏、  
 加、  
 宮、  
 宇佐、  
 直緒、  
 小、



勳功圖會前五

十一



久のちち  
 河野道信  
 ちの仇  
 父乃仇  
 額入道  
 まゆまゆ  
 西寂主後  
 を  
 討  
 討  
 討

勳功圖會前五

十一

津川の者ともなぐも源氏の御方と折し。在々所々乱効。本宮の味方  
 成攻るる多き心なりと申越々多ふぞ。今、東、北、西、南海九列とも歎とたり  
 何れ先征し何を後小征せしや。只、夢小夢小。如くも何  
 と年。た方もたりたり。然るも又、伊豫より由。忌使追々小到者。大行  
 小成。経りたる。當國の任人、河野助通清。去冬より。謀叛。道前乃夜  
 の境、高繩の城。小割。蓄いと。備後國の任人、額入道、西寂國中、乃勢を  
 從へ。輒の浦より。數千の兵船。小取。高繩。押寄。數ヶ度の合戦。小お。ひ  
 終。小西寂。勝。道清を射取。四。尚。平。定。仕。され。勢。小。自。余の逆徒。を。當。伐。從。し。當。春。中。も。縁。小。在。陣。小。他。道。清。男  
 四。即。道。信。又。が。戦。死。の。初。より。暗。小。城。を。落。安。藝。小。下。り。族。縁。体。八  
 百。余。騎。の。勢。成。く。ひ。奴。田。の。卿。より。兵。船。三。十。余。艘。小。取。縁。小。押。渡  
 い。ひ。が。道。信。武。畧。の。者。也。船。も。成。皆。漁。船。の。体。小。仕。立。り。西。寂。也。是

敵船と、夢中も、軍勢を慰せし。室高、故の、梶君、白拍子を集め、船游  
 の、真、成、催、と、折、し。四、即、通、信、是、成、探、し、彼、漁、船、小、忍、乘、り、西、寂、が、船、小  
 近、付、不、意、小、起、り、船、中、の、武、士、成、切、け、し。西、寂、を、擒、小、高、繩、の、城、を、攻、返、し  
 再、度、勢、成、張、り、又、が、靈、を、祭、り、其、前、西、寂、を、引、居、鋸、と、り、斬、り、首  
 を、挽、切、其、後、西、寂、が、族、を、悉、く、攻、亡、し、伊、豫、小、任、人、新、井、武、智、が、一  
 族、皆、河、野、が、威、武、小、伏、し、旗、下、小、属、し。其、外、阿、波、瀨、岐、土、佐、の、武、士、も、多、く  
 河、野、小、力、く。四、國、大、平、道、信、が、右、と、なり、各、心、だ、征、將、を、下、さ、れ、と、由、り  
 一、は、御、大、事、小、及、ん、を、告、り、宗、威、仰、天、一、門、の、軍、成、召、集、り、高、繩、  
 去、々、八、緒、方、乃、注、進、を、受、む。四、海、の、内、悉、く、逆、徒、小、与、力、し。尚、家、小、冠、せ、し、  
 と、何、も、成、先、小、征、し、死、や、列、位、所、存、を、包、み、ず、諸、小、し、や、れ、れ、也。肥  
 後、守、定、能、や、々、々、其、愚、案、を、面、し、い、み、東、小、北、小、の、黨、之、頼、朝、義、仲、小、後  
 乃、も、い、ん、西、國、八、尚、家、恩、顧、乃、ま、た、れ、悉、く、旧、好、を、捨、て、死、せ、り、也、い、ト

勢の中一六虚を吠まきし方大実をばさす中必竟大政入道殿御逝去の幣小  
 系に虚鏡を流布し味方の人心を逐さるの謀少くいな。ゆふ小城太郎  
 助永いむ木曾彼小命せれくも不日小平定しむ。某四小下里河野  
 実否を糾し猶西小の凶徒を切鎮い。只等閑小捨れん。八東小の敵小  
 いむ先達くより美濃小在陣ある緒大将加勢を下され先行家亦を伐也  
 續く頼朝を征し少くを勅要ふくゆと。席を拍くゆれむ。宗盛実ゆと  
 即時小負能小暇をばさす西国下向せり。續く北國の城助永方へ木  
 曾征伐の羽檄をばさす。又奥及御館秀衡が許へ頼朝を征伐とたす  
 けく。叔父源表へ之頭中将重衡権亮女将維盛侍大将小。後守維時  
 船彈判官景家以下八千余騎を授く加勢の為下向す。尚宗盛大軍統領  
 しく及より下らんと用意しとる。

墨股川合戦行家敗軍餘

同小差源表小中宮亮通盛薩守忠度七千余騎あり墨股川小。ゆ  
 処都小大政入道病死せりと。大い小都引返さるゆ。ゆ  
 敵藏人行家再度勢を調(墨股)の東川原小陣を張る。其事ゆ  
 叶ひ陣中色々主戦ふ義勢あり。此時小行家平家陣を  
 襲く。十分の勝利をばさす。原赤軍略小跡死大将ゆ。只目小女ゆの天  
 軍ゆを仕つけ墓々死戦をせられ。平家漸小色を退と持て。然る  
 小重衡維盛勢を率し。池加り。平軍す。色成整い。か。此勢小  
 源氏の奴輩ち散せよ。養和元年三月十日の未明小押出。先陣中  
 將重衡隨逐武士小私彈守景家讀岐守維時。上総五郎兵衛忠光。其  
 勢三千余騎。二陣ハ女將維盛侍。伊勢守景綱。瀬尾太郎經安。三千余騎。  
 後陣中宮亮通盛薩守忠度惣勢一萬五千余騎。墨股川原小押出。藏  
 人行家敵小勢の付し。恐怖し。後を待先陣ハ卿公義





乃音天地を動揺し敵味方の尸を累々として茲彼処に岳を築た血混々として幾條の川を流せり此河平家方乃後陣に如く龍彈守景家元集場敷の功者なれば手勢一万余騎を引率して遠小川原の上を廻り大急小行家が本陣にちくちく行家が陣に先陣の戦ふの心を入後敵の廻り心付され俄に陣中騒だ立須波敵軍後より攻来どと聞た士平も浮足おたり隊任移々と亂を平軍えりと雨の如く矢を射り物乃兵我等と殺倒し切捲ゆ行家堪りし備を乱と敗走行家二男行頼父兄を落さん為小五十騎許も踐止り追来る敵を喰止り暫時支へた遂小主後亂軍の中戦死し行家と泉兄弟此河平が平軍に雌雄を争ひ居るも本陣已小敗りと度大周障と忽ち斬先も引色おちる處を勝傍りの平軍前後より交射し息をも継ぎ探さる程に源氏方備を七烈八裁小切破らき大将義田も亂軍の中戦死し泉

兄弟も痛手を負れを刺違り死し屍は墨股川の泡と消れども名成高天小上も主將已小射死し残兵全うも耻をある敵と刺違り死し義をあるぬハバが多し小落行ぬ此日重衝が手射取首二百三十級維盛乃手八百三十余級通盛が手九十七級忠慶が手八十七六級以上五百三十余級乃首を河原ぞひ小切掛此昔早馬を以て都へ注進しれむ門の人々女の色を整し悦びあふる限り去程小十郎行家不覺り軍し子息行頼をとり義田泉高田乃徒を捨殺し手勢一万余騎も墨股川乃東の小熊しり小足不足を溜り陣をとり平家ハ勝軍の機を後を押詰二番小高橋判官長綱一千騎も攻り尚所ハ要害の切所なれば行家士卒を引げ倍小つら射ちちせられも平家的小つら射倒れ堪えて引退く二番小上総忠光一千余騎を領し押寄し是も射ちめられ引退く三番小龍彈景家四番小伊勢守景綱へくは息をも継ぎ探さる程に



勳刀圖會前五

五十一



すのき川合戦  
 里三股川合戦  
 藏人行家  
 敗軍  
 郷公義四  
 戦死の  
 因

勳刀圖會前五

五十二



とより年音利り者を使者くく笠原遣はさゆ。佐原主命を承て後  
率十余人を従へ笠原小至り斯と通れ頼直嘲つて木曾山云月乃扁持  
數度使者を差越我を味方小招之とせゆ。手切の反答せし猶りも  
使者を差越を序腹痛をいりし音あり是を通りも命はら矢  
劔戟を飾まてお待処。佐原十郎五郎青侍の案内小はきくお通  
平吾頼直使者小向ひ木曾乃使節は是すも再三小及べり我は平家乃思沢  
を蒙りこれ練致の一味おひもよひと固く手切の反答せし猶り使者を  
差越何事成説ん為かや言へまんとぞや。佐原答て曰仰をまじく主か  
義仲天命小順ひ彌る平家を伐ん為義兵を起さる小付普く尚ほ隣小の  
武士を招き小来ひ旗下小屬義戦を技んとす。然ふ独り家乃違背  
ある上巳事を不得手始小尚家を攻伐るへんも笠原小尚ほ小久死任人  
といひ御辺す義を旨く武を屬す名士をたむ。木曾殿是を惜しむ再

三我を来しあか処かり。天命小順者八梁。天命小逆者六亡。御辺平家の  
思沢を蒙る事を知ふ。も帝王乃思沢小浴する事を知ふ。は何  
ぞや。普天乃下王乃地小あさる処か。率土乃濱王の国小あさる処か。然  
む山川丘岳五穀金錢何れも王乃賜ひて。更ふ平家乃賜ふあむ。今其平家  
と保元平治乃軍功小り。大国數多賜り。子孫榮耀小飽れ。深く帝  
恩を感佩もたぬ。然ハかくて。春移日小超過。一國政を專や。猥小新  
大納言成親卿及子を流罪。棋政殿以下四十余人の官爵を止す。其所領  
悉く没所。已か有。故を小帝位下し奉り。孫をりつて。帝王と。外叔  
乃威小誘。鳥羽乃離宮。法皇成押筆奉り。高倉宮成討奉り。御首を  
大路小渡をかん。悪逆漢乃王莽堂阜。斯程乃悪行ハあむ。と  
ま。天怒り地憤り。洛中。天變地妖。現乎事累年。心ある者争ふ。是  
成悪しんや。我主義仲是を責ん。私乃意趣ハあむ。恐懼ハ最勝

親王乃令旨を蒙リ。第四の若宮成守を立。二ツハ帝王の震襟を安んじ。二ツハ高倉宮の仇を復し。三ツハ萬民の水穴を陥を救ふ。敢て一毫も我富貴を需る為ふあらず。湯王の夏祭を伐武王の殷紂を伐。八無道。れども其君より。それとも聖賢を好し。此ハ況や源平兩家。八朝廷の補佐。理の尚然たり。何あふ平家は成礼し。平家僻事あふ源氏は是を誅。理の尚然たり。何ぞ是を不義。謀叛の族とせんや。願くは御邊。是ホリ理を察し。暴悪の平家成捨。誠忠の源氏。加祖あふ君の為。忠なり。先祖乃為。孝なり。何を憂し。鏡々る。頼直呵々と。晒。利。口。邦家を覆。汝が事よ。猥。平家。の非を。非を。却。源氏乃非を。抑。六條判官。為。義。老年。の愧。保元。新院。却。謀。叛。の。加。膽。一。戦。敗。績。已。が。子。乃。義。朝。が。為。誅。せ。れ。至。私。朝。ハ。至。悪。右。衛。門。督。が。逆。意。加。膽。朝。敵。と。なり。長。田。が。為。弒。せ。れ。り。並。ふ。頼。朝。も。義。仲。の。勅。勅。の。身。り。又。高。倉。宮。の。令。旨。を。得。

とつ。この。是。私。の。令。旨。也。法。皇。の。院。宣。今。上。の。勅。宣。ハ。異。なり。平。家。卿。の。帝。王。小。弓。誓。な。も。と。国。政。を。為。ふ。法。皇。を。押。籠。なり。帝。の。位。を。下。し。す。例。を。た。お。わ。す。今。汝。が。言。商。湯。周。武。乃。君。成。代。の。利。世。安。民。の。為。なり。大。政。入。道。我。孫。を。王。位。に。勸。め。し。つ。も。腹。假。物。種。ハ。天。子。乃。御。風。を。何。の。悖。り。有。ん。去。た。が。義。仲。と。今。上。天。子。乃。平。家。追。討。せ。し。の。勅。宣。を。蒙。り。て。の。旗。上。か。ら。む。頼。直。一。味。と。せ。ん。も。な。く。は。是。高。倉。宮。乃。君。宮。を。指。し。は。死。平。家。乃。富。貴。を。奪。ん。と。も。朝。敵。謀。叛。の。す。し。何。と。居。文。高。小。乃。つ。つ。ふ。と。も。乃。佐。原。も。勅。宣。の。義。小。結。り。心。裡。に。思。惟。し。士。と。者。ハ。四。方。小。使。し。君。命。を。辱。む。と。縋。り。今。頼。直。邪。兵。小。非。分。の。理。を。り。木。曾。殿。を。不。義。謀。叛。と。罵。る。是。を。成。捨。と。嗚。呼。所。謂。君。命。を。辱。し。む。所。在。伏。後。せ。る。者。を。統。伏。と。せ。し。首。を。提。え。ん。と。不。敵。也。胸。を。定。め。頼。直。を。恥。と。白。服。と。曰。汝。言。の。根。の。和。を。終。子。毒。惡。の。平。家。と。



笠原平吾  
 佐原十郎  
 刃傷の図

幼刃圖前五



善功門前

具以負し忠良の木曾殿を謀叛す。是天小逆の逆徒なり。神明の御討思  
まれ。太刀抜放し。頼直原来武辺の者なれ。速早く起退け。  
太刀を抜。上段下段切結。室原が郎黨大おれ。主を。  
各太刀ふ手成。平吾頼直戦か。色成。汝亦助太刀無用なり。  
是許の弱敵手並争。手成。制。切結。伏原も頼直が  
太刀風切。清太刀。頼直得。大鳴。頼直より  
切下。女。伏原が右の肩。利腕。切落。大事。手な  
十郎。倒。二刀。切付。遂。首。斬  
太刀。貴。佐原。後者。遠侍。汝亦。是。義仲。使者  
佐原十郎。無礼。働。擡。汝亦。悉。珠。此首を  
言。雜人。斬。長者。氣。侍。命。汝亦。得。此首を  
擡。義仲。室原。平吾。平家。の。忠臣。蘇。張。義。兵を

りつ。謀。二。味。由。元。益。乃。使。差。越。我。度。わ。斯  
乃。首。飯。告。城。門。在。追。多。伏。原。郎。黨。大。乃  
恐怖。主。首。抱。尻。逃。足。早。逃。出。顔。色。お。木  
曾。互。之。伏。原。首。代。早。戰。慄。有。頼。未。を。言。上。木。曾。殿。齒  
を。切。大。子。怒。ひ。渠。を。人。を。度。々。の。無。礼。を。省。尚。約。會  
秋。飽。我。を。纒。り。使者。の。首。を。斬。返。を。奇。怪。上。其。義。仲。平。家  
追。討。手。始。先。頼。直。鬚。首。捨。切。今日。の。反。報。尚。魚。兼。軍。戦。の。用  
急。洞。ひ。急。味。方。緒。將。出。陣。の。旨。觸。渡。根。井。高。梨。大。室。小。室。と  
先。我。弛。集。早。千。余。騎。看。到。付。木。曾。殿。悦。喜。が。あ  
く。手。勢。八。百。余。騎。を。合。せ。都。合。千。八。百。余。騎。旗。上。の。式。軍。神。の。血。祭。法。の。如。く。執。行。ひ  
備。を。七。隊。初。回。天。乃。勢。を。現。出。陣。有。多。八。最。勇。と。刀。え。り。多

義仲智略陷落室原城條

笠原平吾頼直ハ木曾の使者公斬り友一れだ。一定義仲寄きくくし察し  
 手勢五百騎めく家城の至る處で城外の柵邊木成り。城内ハ大木大石積  
 貯(矢根を奪え太刀乃目釘喰示く。木曾勢きくくを泡吹せんと待けたり  
 此ハ木曾(皮スえんて。義仲朝くくひひ。頼直勇なりとも堂手むり乃小城子  
 立電り何時くく堪つん。一挙の踏落くく死る佐原か及報小備よと七隊の  
 陣成押出さる。先一番小今井四郎兼平三百余騎。二番小樋口次郎兼光。三番小  
 八根井大弥太忠親四番小柳六郎親忠五番小望月太郎日次郎。六番小長友安巴の  
 前婦人なりとも無双の太刀の上弓箭物物の達者なれ。二隊ハ大将とせし。七番  
 大将冠者義仲五百余騎自余の六隊三百騎宛なり。緘子数年調煉の勢なれ  
 一隊位較正くく如何なり鉄城堅陣なりとも一挙小突破らん。勢ひる。斯  
 く養和元年二月十七日の朝ハ笠原ハ居城小押寄くく。平吾頼直も三  
 百騎めく城外ハ下陣小陣を張たり。木曾殿ハ先將今井四郎兼平見成りく

矢頃トれ処ハ勢をくく。搦楯推開各々陣頭小馬成を素出と。兼平ハ出立ハ  
 花田純子の鎧直金小黒系威の裾金物あさ。鎧を透間もなり。着下ハ。月毛の三  
 枚兜の緒を締。三尺六寸の長覆輪の太刀。鷗尻小御左手差十文字小帯を。蹴馬  
 乃羽の征箭ハ四指くく。成若高小負く。三所藤の強弓ハ真中握。甲斐黒の太  
 く。逞ハ。兒小青貝の鞍。みねく。赤建。十里小御音く。許ハ。大音上敵陣の。主將ハ。問と  
 く。も。あ。り。笠原殿なり。斯ハ。木曾殿ハ。御内小中三権頭兼遠が嫡子。今井四  
 郎兼平ハ。以前ハ。月國の好小音信。成ハ。通下。患難ハ。相校。中ら。ひ。な。り。今ハ。御  
 曹子義仲公の旗下小属。虎狼の平家を追討せん。先陣成ハ。賜され。敵々  
 くり。一言や。り。乃。い。は。疾。を。馬。成。出。れ。い。は。呼。り。り。多。是。成。ゆ。く。平。吾。頼。直。は。く  
 陣外小馬成出と。其將装小。緋小。白。く。蝶。乃。丸。縫。く。小。鎧。直。垂。小。白。と。赤。と  
 段系威の鎧小。減金の裾金物あさ。成。穿。ち。月。輪。乃。前。立。物。あ。さ。月。毛。乃。甲  
 を。指。首。小。着。なり。生羽の征矢成。負。く。赤。釘。作。の。大。太。刀。ハ。短。刀。夷。め。く。佩。る。



重藤乃弓小服小極込葦毛乃詢の八寸許なる陰鞍おたてて赤袴王馬乗居  
 兼手小一揖。劫うい今井の御辺父子久し、尚小の任人少く、平家の覺  
 も他小異小思、沢も深も、何う不足有て、因もたれ義賢の子を兼育し  
 由たれ、練教を勤め平家を背な。是誘ふの石成抱く、淵小投し、薪を肩く  
 焼野を走る小等しく、身成亡し、家名を絶え、月前なり、夫過る改る小憚  
 るか、れと縋り、早く先罪を悔く、義仲を頼め、我陣へ贈られ、さもあつ、頼直  
 六波羅へ執達し、今迄の罪科思免を願ひ、はつとをせし。事もたげ、のひ  
 ら、兼平呵々しく、い祭が、大八荒を吠ると、八汝が事よ。今平家乃一門を三綱  
 破り、五倫を亂し、大殊既小身小及べり。此を我君天小代し、其罪を糾し  
 五つと、義旗を北陸道小開たし、心ある族、風成望み、降札を勤免。道路  
 の氏も、寧食壺將首し、迎ふる小、汝一人愚昧小、猶平家乃好悪を扶け、  
 天兵小ら宮人し、是をを能く人小入、使し、ゆと、戦坪叩く、自辱し、

これ頼直勃然と、大の小怒り、黄口の孺子が悪言法小過り、此上、無益の言  
 闘ひせし、一戦小蹴散し、捨ん、後を顧り、味方を指招た、齊小金鼓を鳴  
 一減を造り、矢を射る、雨の、兼平も味方を指揮し、減を令、箭と  
 射及、少物の兵を勧く、迎戦し、平吾元來、場敷小なれ、老煉の手なれ  
 かね、機を、妻小態、兵卒を進退し、手足の、船宋配を、  
 下知も、程小、兼平が陣ち、け、三段をり、引退く、頼直え、りと、氣を、  
 須波敵、浮足小成、と、勢小、抜、守追、よ、船も、太刀振、敵軍小  
 鬼向、出、然幸、以寄、を不、連、斬、強將の、下、弱卒、を、平吾が、嫡  
 子平太政直甥の、平四郎、某郎、堂、小、洛合軍、次、箕嶋、太郎、関口、藤太、を、  
 竟る者、の、主、小、力、戦、程小、兼平が、勢、遂、追、捲、れ、敗、二番  
 小備下、樋口、二軍、兼平小、入、手、痛、攻、戦、頼直、猶、精神、を、  
 真平直小、蒐、程小、樋口、陣、堪、八、方、散、頼直、息、吐、

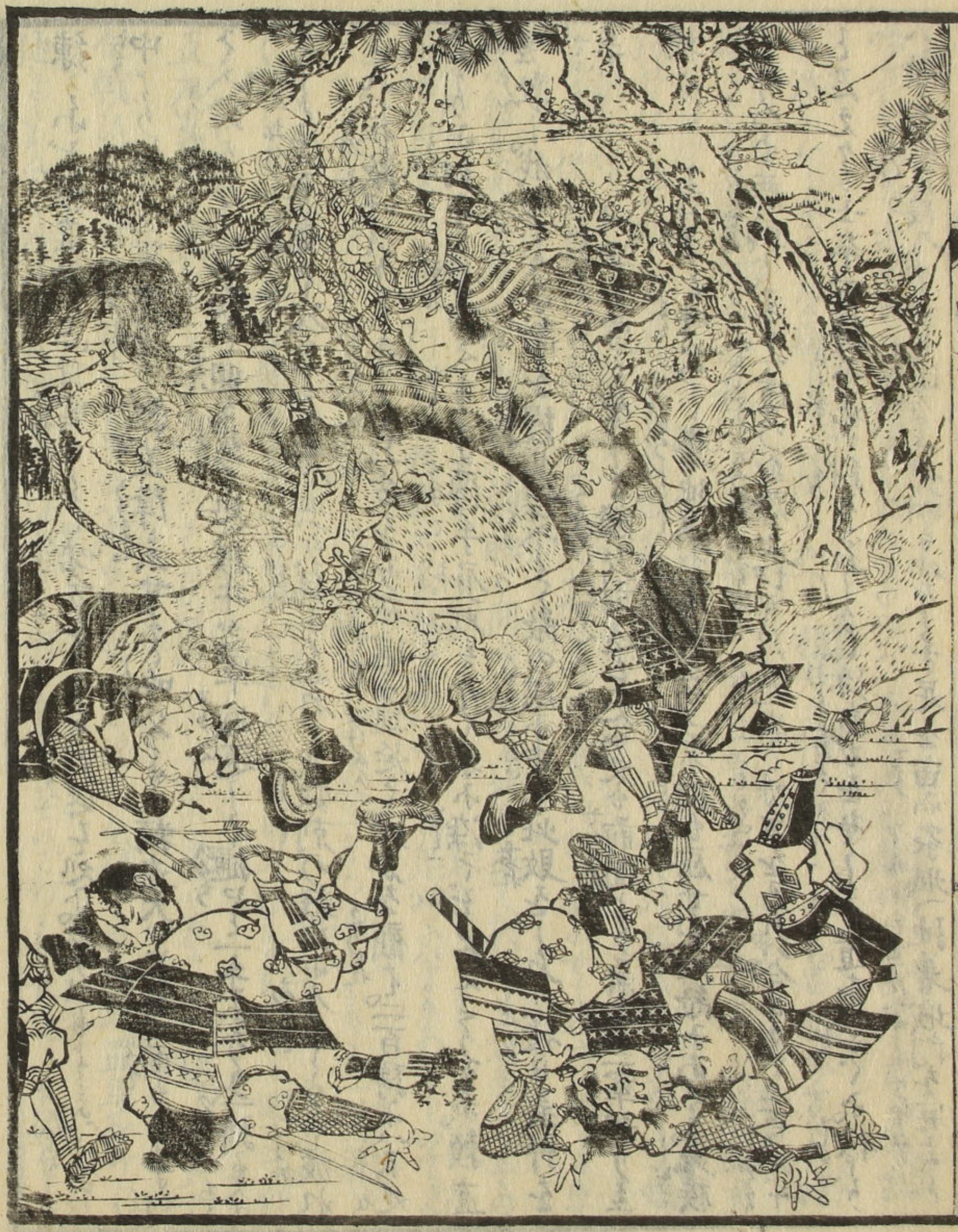




ねのりのおきさ  
根井大跡太  
武勇  
うさぎのへで  
笠原平吾  
血戦  
西園

幼切園會前九

廿五



幼切園會前九

廿四

呼らふ。忽ち櫓々白旗押立声々。尚城木曾殿の下知らる。落合五郎  
 海野太郎塩田八郎亦疾より急落たり。命惜くも身を脱ぎ降とせよと  
 呼らる。頼直仰天。板深く敵欺く。城をも落され。口惜き。今も命  
 有ても何かせ。再度敵中へ地へ切死せんと。血走る眼も涙を洒。灼頭の頭を直  
 ま。空原の甥の平四郎。始め星名権八。其嶋軍太亦喜ばる。飛り。今御最期  
 あら。八御短慮の到なり。越後の城太郎助永。大身の大名。かれ。必定木曾と征  
 せし人を助永。あまの雀。一旦の無念を忍び。敵の寄ぬ。よ。尚処を落。助永と頼  
 直。御身をよせ。今日の恨を報。多し。練められ。頼直漸く伏し。さ。さ。主従八十  
 余騎。任訓。家城を。捨。と。越後を。落。行。され。木曾殿と  
 窮寇と追。り。勿れの本文を。思。言。さ。り。や。固く。緒。卒。小。追。討。ま。ら。り。と。制。サ。れ  
 ら。れ。木。曾。原。不。倒。の。一。命。と。助。り。往。々。越。後。後。著。城。助。永。小。對。面。合。戦。の。始  
 末。を。結。り。身。上。を。頼。ら。れ。助。永。快。く。領。歸。し。國。中。小。足。を。留。ま。せ。ら。る。や。木。曾。原。大

小説の日々。助永と高嶺。木曾。殊。伐。の。義。を。勸。む。り。も。助。永。天。性。驕。り。と  
 自。負。の。男。中。已。が。勢。以。強。を。憑。り。義。仲。謀。叛。と。も。何。程。の。り。然。り。仕。出。と。死。  
 渠。お。り。程。勢。を。属。せ。其。後。我。一。戦。小。虜。と。な。り。尚。お。の。武。威。を。世。に。示。す  
 ざ。と。大。言。一。晝。夜。宴。樂。の。耽。り。合。戦。の。用。意。を。お。せ。ざ。れ。木。曾。原。之。頼。り。小  
 氣。を。焦。燥。と。り。下。も。奈。何。と。の。詮。方。を。空。く。腕。を。撫。り。時。日。を。送。り。々。小。家  
 城。小。残。一。丸。を。郎。亦。空。原。の。妻。女。妻。や。び。面。々。の。妻。子。を。も。推。す。追。々。越。後。へ  
 尋。ま。り。れ。頼。直。大。小。悦。び。汝。亦。之。城。小。残。を。木。曾。原。へ。送。り。分。り。り。と  
 し。サ。い。小。如。何。と。身。を。全。し。茲。に。落。延。と。り。向。前。意。亦。各。日。に。公。主  
 君。御。出。城。有。し。後。合。戦。最。中。と。り。頃。サ。い。い。も。う。ね。搦。手。より。四。五。百。騎。の。敵。軍  
 以。入。不。意。小。難。を。い。ち。味。方。途。を。り。し。ま。の。周。障。を。か。り。防。禦。仕。り。と。り。敵  
 ハ。妻。勢。を。れ。後。早。く。婦。人。童。を。虜。小。強。く。拒。敵。せ。し。妻。子。を。悉。く。誅。す。不  
 連。小。兵。城。せ。し。妻。子。ハ。命。を。助。り。と。り。已。り。を。不。得。兵。城。と。り。首。を。下

以て敵搦手の城門を定めた城中の男女残らんと助出らん扱と某城を落く世の  
風流をうけむりいよ幸小主人の戰場をのぞく南國(越)より新尋すあり  
いと緒めいど頼直女一力を得郎黨も三百余人集りさされ此上は是れ助  
永を勧め我先陣をこし緒く木曾殿亡し先敗り耻辱を雪んと專其心構を  
木曾殿仁智緒將飯降條

信列の木曾冠者義仲公三始の二戦小壽策を廻りさしも半剛をうき堂原  
を攻め居城をさく糸落しむひい幕下の緒將其效を感歎し木曾  
殿いよ二度も戰場に臨むさうら奇謀を絶しも一と恐るん冥八幡の  
未孫とく智とひ勇とひ天晴當時の名將を在せりと称信伏しり木曾殿  
と堂原の城のへ緒士の軍功を記し甲し小依と忠賞に汝汰せられ扱此度乃手  
肩戦死を點檢させしり戦死の者八十余人手肩百二十余人を記しり則戦  
死の者の妻孥の重く賞録を賜り手肩と皆木曾へ送るも治療を加しり郡

縣を治め制札をまき堅く士卒の乱妨を緘めれり百姓高賞皆其徳風を  
仰然天晴此殿久く御在世あまかきと称する其後木曾殿六城を望月足身小  
守りせ木曾(凱陣)あつて勝軍の祝義行れ船長家を巡り手肩の者も各  
を紡ひ憫み保難の音を教示し甚しき者半ばも金瘡の膿血を拭ひたし  
く恤めいど皆其仁惠を感謝しり其が中一人の安卒の在るが老母  
着病し居り小大將船鼻汚の病床小近付病を訪りみを見さあくと泣き  
いど木曾殿老母小向ひ汝子の金瘡小苦むを悼歎し心を労とみる勿き  
事の手なうを頼り快復せしむと諭し其老女泪をせめてやき  
不口さふはむと嬌と此者一人を使小世を送りい此度の軍役小  
乃矢痕を蒙りい成尊た医師小足あつて母とひ恐惶も大將軍の親卑を  
者乃病の床小臨し斯くハ我子言甲此をくも再び軍の場小望す  
殿の御為小命を捨る今日乃御恩を報ひしと身成小敵小向く

いふ討死せし者の妻子はとて恤せしむるはさうはさうとまじくも老く一人の子  
 後を如何物沢賜るも何六婦しるべしとかりひらふも老るるを  
 先泪乃先達ていと答なる。木曾ぶの可咄もよる哀おかへし召賤た姥の心ふ似  
 かくせしむせし先操も心安れ此後ハ汝が子兵糧小荷致ハ昔役は  
 て戦場の役ハ用也しとて仰せむ。老女再拜し深く恩をど謝しふる。  
 これ木曾殿の士卒を懐めし斯のくあくの士卒も仁恵を及しむハ  
 遠近まじくもまじく之傳へ旗は捲甲は脱ぎ降る者絡繹し絶間なく信  
 濃上総加賀能登越中越前大半木曾殿の幕下ハ属し其勢ハ弥強大なり  
 これ右の国々の旧代大の勢を告木曾義仲日々小軍勢を集  
 勢ハ強くなりし早く征兵を下されし北陸道一田ハ木曾が有るなりハ  
 とやみぞ平家の人々大にみづらた。木曾の義ハ先達て城太郎資永が方ハ撥文と  
 傳ハ早く征伐を命せしむ。今りつて其義ハ敵ハ断りて勢ハ

附々余甚し。しつて不届かりしと再び越後ハ使節を立信列ハ木曾謀叛と  
 国中を乱妨せし趣其まえあり助永隣国ハ在り是を他ハ不ハ當家より  
 命令を抄捨。今ハ木曾退治ハ結構なれば。逆徒ハ加膽せしむるあり  
 大軍を差向木曾より先越後を攻伐しむ登り。又逆意ハ早々ハ出  
 馬し木曾を征し。北陸道を靜謐せしむ。命し令し木曾助永大に  
 かくらた。此上ハ不日ハ出馬し木曾を征伐し。義仲ハ首級を突儉ハ備へしと  
 返答し使者を返し。火急ハ国中の兵卒を驅集め。信列ハ馬を向し其用  
 意成しむる。

木曾殿与城助永對陣條

抑城太郎助永とつ六戸徳山と鬼神を退治せし。五將軍平維茂より西  
 代ハ後胤貞山太郎永家が孫城鬼九郎資國が嫡子なり。平時艱難元年六月  
 廿五日ハ波羅の下文の音ハ任せ。越後出羽ハ勢を集むる。六萬余騎者到り

付えを助永より顔ふ可笑此猛勢をりつて微弱乃木曾を伐んて盤石を  
 りつて鷄印を推しより由安りあんとて勢を三手小分と押出と先筑大越の八濱  
 小平太橋田太郎を大将とて此手小属とて兵一萬余騎上田越の津波田庄司  
 太夫家親を大将とて是も属とて兵一萬余騎なり助永小沢左衛門景俊と  
 始つて勝港房の子息藤新太夫真山権頭其子横新太夫立河兼賀を従  
 へ其勢四萬余騎先陣を兼ての望みれば笠原平吾頼直三百余騎ゆくありたり  
 其より野小亮山小蔓と殿と此勢小向いかに如何なる木曾殿も一戦の下小命と  
 損しゆるをどえとり多斯く助永居城をまき其日越後乃國府小つた望  
 日越後乃信濃の境から冥山寺越筑大河の端から横田河原小陣を張近辺と  
 放たれ敵を待信濃へも早く此事覚えれば氣早乃木曾殿旗下の緒將令を  
 下し足長く敵を國中へれむ追拂とて兵士を率ひ出陣あふ其軍小八福三  
 郎兼光今井四郎兼平根井大弥太忠親楠六郎近忠落合五郎兼行塩田八郎

高光望月太郎月次郎海野小太郎八嶋西郎平塚列當子息太郎光盛金剛別  
 當大室小室高梨かんた始名信濃上野兩國乃勇士を集へ其勢二十余騎  
 を七隊小分ち白鳥川原まき出張ある時小楠六郎馬より下り兜を脱り股狭  
 んが大将木曾殿の御前小もまき敵八横田川原小出張はより其彼所へ  
 純向の敵の動静を見せしむるありゆゑ如何いと伺ふ木曾殿黙首むいむ  
 登し仰ふと親忠頼と馬廻の者二十騎をり少く白鳥川原をまき塩尻の方  
 へ釣を歩せ敵陣道おんせむ横田篠野井石川の民家を焼く戦場の科小  
 かり敵軍雲霞つて野小亮山小蔓まき和り忠親くくから大法堂の前小  
 て馬より下り甲冑脱ぐ八幡の社乃前小額付祈念しとやさ南無八幡武太神  
 愛慰の時をまき願ひ願ひ小主君木曾殿此度の二戦小勝利ありやう獲りありへ  
 ともあへ神恩を謝しより宝殿小珠玉を磨り大宮小御神樂若宮小仁王  
 経を不斷修り峯見乃御前ふくを左右小八人ほどの神樂女侍神樂男侍

退轉なく神事を勤め神慮をまゝとあまの心と敬白し、惘小新王終り、叔郎  
 ホを使者として木曾殿の本陣へ参り、城太郎在々所々火を放ち、横田  
 篠野井石川辺を焼く。いふ大法堂八幡の社等、火も焼拂くとせん。もこれ  
 どの大八幡宮八源家宗廟の靈神あり、在々ものを敵の為小焼く。木曾意なくす  
 ぬいひ急だ尚所も御陣を寄せ、せむしやせむれ、木曾殿伏せし親忠  
 神妙も心付くるといひ、緒將を従、夜もとら、大法堂へ馳着、いひ八幡宮を拜  
 し、惘小新王、いひ親忠を召まき、敵の動靜をせむし親忠、やうるハ敵陣の旗  
 印をいひ、越後出羽の堂と相見え、兵火三隊、小九五六万騎の勢とあり、い味  
 方の勢、いひいひ三十倍の大軍、いひいひ、一大事、敵もいひいと言上り、木曾  
 殿微笑し、いひ昔周の武王、殷の紂王を征せん、と都城へ相寄る、周の兵、四萬五  
 千人、殷の勢、七十萬人、是を比まき、雲壤の違あれども、武王女も恐る、色なく合  
 戦、いひいひ一戦、いひい散。紂王を討ち、周室八百年の基業を冠たり、九戦、いひ道

ハ兵の殺寡ふ、守大将の謀略と士卒の強弱、いひい、城太郎己大國を領し、勢  
 の衰たを憑、いひい、必む我を纏り、性ん、いひい、是即ち敵敗亡の線、いひい、御邊ハ敵の  
 大軍を、いひい、怖畏の、いひい、有、いひい、義仲が眼より、いひい、時ハ、いひい、只是、土、いひい、集  
 まら、いひい、如、一、いひい、追散、いひい、何の難、いひい、あ、いひい、夫、千、いひい、の、いひい、又、水、を、探  
 り、いひい、兵を、いひい、傾け、いひい、萬丈の、いひい、溪、いひい、山、石、を、倒、いひい、敵を、いひい、亡、いひい、軍、略、の、いひい、真、秘、を、いひい、い  
 い、いひい、敵を、いひい、侮、いひい、時ハ、大、いひい、敗、いひい、お、いひい、只、味、方、の、兵、卒、心、を、一、致、いひい、軍、令、を、誥、す  
 進退法、いひい、小、合、いひい、五、萬、ハ、疎、百、萬、騎、の、敵、いひい、いひい、恐、いひい、不足、各、心、を、責、て、明、日  
 の、合、戦、いひい、信、濃、武、士、の、武、勇、の、程、を、敵、いひい、いひい、せ、分、外、の、高、名、を、頭、いひい、いひい、仰、れ、い  
 親、忠、いひい、いひい、自、余、の、緒、將、も、其、論、いひい、いひい、勇、氣、日、頃、いひい、百、倍、いひい、天、暗、此、夜、の、疾、明  
 上、助、いひい、いひい、泡、吹、せ、と、手、具、を、いひい、引、く、待、た、いひい、いひい、深、ぞ、いひい、いひい、いひい、いひい

木曾義仲勲功圖會卷之五畢



天保四癸巳歲孟春發行

画三世相日用寶鑑寸珍本全一册

此書ハ須弥山地球の図鏡を首  
 一歳徳神八将神大將軍  
 金神ホの繹曆中段乃吉凶  
 六十図四季乃皇帝男女代の  
 ト字本尊相性の善悪或々  
 暗雨の考有卦無卦病氣乃  
 生死をみる法其餘種々の奇法  
 日用便利の事彙集する珍書之

書

江戸 丁子屋平兵衛  
 京都 中村屋幸藏  
 京都 吉野屋仁兵衛  
 伏見 屋半三郎  
 尾陽 玉野屋新右衛門  
 泉列 坂任吉屋弥三郎  
 大坂 河内屋喜兵衛  
 河内 屋長兵衛

林

皇漢洋今古書類自家積年發兌セル者ト其集  
 北藏畜ニ充棟載車ノ夥キノミナラズ品位精工價  
 程清廉以テ四方君子ノ愛顧ヲ待ツ

文榮堂藏版

東區南久寶寺町四丁目 八番地

阪府書林

前川善兵衛

